

- 1 FD ワークショップ開催報告
- 2 インタビュー ● 国際言語文化センター 授業公開について
- 3 セミナーレポート ● 学外FDセミナー

1 FDワークショップ開催報告

主 催 甲南大学FD委員会
開 催 日 2012年12月8日(土)
開催場所 甲南大学西宮キャンパス

テ ー マ Planning your Course
 ～「この授業から何を不得ほしいのか」から授業計画を見直す～

講 師 マネジメント創造学部
 ジョーンズ・ブレント先生、パーマー・ロジャー先生

初年次向けの授業科目「フレッシュマン・オリエンテーション」を担当することを想定して、この15回分の授業について各回の学修目標を設定し、それらの項目をグループ化し順位付けをすることで、この授業の学修目標が何なのか、この授業を通じて何を学んでほしいのかを明らかにする作業を、グループごとに分かれて行いました。

今回のFDワークショップを通じて、授業改善のためのさまざまなヒントを教

わりました。毎年度シラバス作成の際において授業計画をたてるに当たっては、何か一冊の教科書を指定した上でその教科書の章立ての通りに各回の学修目標が設定されることも多いものと思われませんが、今回のFDワークショップで作業したように「この授業から学生に何を不得ほしいのか」というところから今一度授業計画を見直すことは、授業改善の契機となります。

また、授業計画や学修目標を他の教員と共同で検討することは、授業実施におけるさまざまな悩みを他の教員と共

有してともに解決を探ることにもつながります。

とかくFD活動・授業改善というと、どうしても当該学問分野の専門性・特殊性から、授業担当者、学部・専攻等という枠にとらわれがちです。この点において、今回のFDワークショップは、教員が学部等の垣根を越えて、さらにはこれに職員も加わって、共同作業を通じて授業改善のヒントを学ぶものであり、このような機会はとても貴重であり有益でした。FD委員会は今後ともさまざまなFD活動に関するイベントを企画しますので、みなさま是非ご参加ください。



パーマー・ロジャー先生 ジョーンズ・ブレント先生

学生に何を不得欲しいのかという観点から授業計画を見直すことが授業改善につながる



▲ワークショップには様々な学部の教員や職員が参加した

参加者の声 ● 経済学部 市野泰和先生

ふだん、学生にグループワークをさせたりしているけれど、いざ、自分がそれをするとなると、気恥ずかしくて普通のテンションではできなくて、厚かましくて馴れ馴れしくてテンション高めの鈍感な人を演じてしまう（いや、それが僕の地の性格なのかもしれない）のがおもしろい。「授業をデザインする」ことがテーマの今回のワークショップ、学生にどんなことを身につけてほしいのか、ということから遡って考えるべし、というのは、言われてみれば当たり前ののだが、はっとさせられた。そして、授業の組み立てを考えると、一人でするのではなく、複数の教員で話し合いながらするほうがいい、というお話を聞いたのも大きな収穫だった。そのアイデアを生かすべく、経済学部では、さっそく、入門マイクロ経済学・入門ミクロ経済学の担当教員でミーティングを行った。

国際言語文化センターが今年度後期に実施した学内外への授業公開の試みは、センター全教員の授業を実施の対象とし、学内のみならず学外にも公開しているなど、いくつかの特徴があります。このような制度設計を行った趣旨、実施してみたの感想などについてセンター所長の中村典子先生にお話を伺いました。

● 授業公開の概要

期 間 2012年12月3日～8日

対象授業 全専任教員（英語特定任期教員、日本語特任講師を含む）の授業

公開の対象者 甲南大学関係者・教育関係者・在学生の保護者の方・高校生およびその保護者の方

授 業公開実施の目的は、①教員のFD活動の一環として、また②センターの外国語教育への理解を深めてもらう機会を提供することの二つです。

①の狙いは、教員が相互に授業見学することで、見学した教員側では、他の教員の授業方法を参考にしたりアイデアをもらったりして、授業の質の向上につながることで、公開した教員側では、見学者からの感想や提案・助言を自分の授業に生かすことが可能となることにあります。

②の狙いは、センターの少人数教育（英語35～40人まで、初修の第2外国語25人まで）の実施や、ICTを活用した先進的な外国語教育を可能とする「iCALL教室¹」等教室の設備を、学内外の方々に広く知ってもらうことにあります。



公開の対象者を、大学受験を控える高校生とその保護者、教育関係者（高校の先生）まで広げているのが特徴ですが、中でも保護者を含めているのは、授業公開が平日に実施されるために高校生の参加が難しいことへの配慮であり、公開に対する積極的な姿勢がうかがえました。これら学外の参加者が増えれば、甲南大学受験生に対するPRの機会にもなり得ると考えられます。学外に対する授業公開実施の告知方法は、現在のところセンターのポータルサイトだけなので、今後、広く告知する方法を検討したいということでした。

今 回、初めて授業公開を本格的に実施するうえで配慮したことは、

1) 公開する授業を受講している学生たちに事前に通知すること、2) 見学者用に資料やテキストをできる限り準備し、授業にできるだけ参加してもらうこと、3) 取り繕うことなく普段の授業を見せることの3点であったそうです。

そして、実際に実施してみて、次のよ

うな感想が聞かれたそうです。

- 担当が見学者のために教材を準備していたのが良かった。
- 外部からの参加者があったことが、担当者に緊張感を与えてよかった。
- 見学する側としては、アイデアを学ぶことができてよかった。

そ して、来年度に向けて、1) 年2回（前期・後期）の公開期間を設定すること、2) 専任教員1人あたりの公開授業数を2コマから3コマにすること、3) 専任教員同士の授業見学のルール（1人2コマ見学）を守ってもらうこと、4) アンケートの様式を変更し、数値データ化できるようにすること、5) 教育関係者、保護者（在学生・高校生）へのPR方法を考えることが検討されているそうです。

専任教員の授業を他部局・学外に広く公開し、また、実施の効果を上げるための方策を講じて、授業公開の制度を積極的に活用していこうとするセンターの試みは、先進的取り組みとして大変参考になりました。

*1 2012年4月、日本で初めて「外国語教育」に特化した授業でiPadを活用したCALLシステムを構築し、その立体的空間をiCALL教室と名付けた。

学外FDセミナーに行ってきました!

知能情報学部 小出 武先生

「私立大学情報教育協会主催 FDのための情報技術講習会」

講習会が用意した3つのコースのうち、私が参加した授業デザインコースの到達目標は、学生が能動的に学ぶ（アクティブラーニング）授業を設計するための基本知識と技能を深めることでした。講習初日の前半では、アクティブラーニングの基本を学ぶ講義や事例発表を聴講しました。その後はグループワーク

を行い、主体的に考えて行動することによる学習効果を実感しました。アクティブラーニングを自分の授業に導入する方策についてグループのメンバーと議論し、最後にはその内容を発表しました。

数学のような積み上げ型の授業でも、前提知識となる予習の理解度の確認、学習内容の応用事例を示すことによる学

習意欲の喚起など、グループワークが効果的に使えることが分かりました。またLMS (Learning Management System) を効果的に利用することで、学生の学習意欲を上げながら教員の作業負担を減らせる事例を知りました。学内LMSが有する機能をよく理解して、今後有効に利用したいと思います。

さらに詳しい
情報・報告は
ホームページへ!

問い合わせ先

FD委員会ではFD活動やFDニュースについてご意見・ご要望を受け付けています。
大学企画室
TEL 078-435-2663 (内線2810) FAX 078-435-2306
MAIL kikaku@adm.konan-u.ac.jp